

# 新下水道ビジョン2100(仮称)の検討の方向性(案)

- 下水道ビジョン2100に掲げた、“「排除・処理」から「活用・再生」へ転換し、健全な水循環及び資源循環により地域の持続的な発展を支える『循環のみち』の実現”という方向性は、新下水道ビジョン2100(仮称)においても基本的に見直す必要はないのではないか。
- 今後、本格的な管理運営時代を迎える中、『循環のみち』を実現するためには、「モノ」の視点のみならず、インフラを運営する「人」・「カネ」を含めた「インフラシステム」として最適化する必要があるのではないか。
  - ➡ 『施設再生』から『持続のみち(仮称)』への進化
- また、下水道は、水・資源・エネルギーの集約機能を有しているとともに、水循環、資源循環にはエネルギーの観点も求められるため、「水・資源・エネルギー循環の一体管理による最適化」を図る必要があるのではないか。
  - ➡ 『水のみち』と『資源のみち』に一体管理の視点を追加

